



# 栽培用リンドウを食害するリンドウホソハマキの分類と生態

九州大学大学院 生物資源環境科学府 昆虫学教室 <sup>すず</sup>鈴木 <sup>き</sup>木 <sup>しん</sup>信 <sup>や</sup>也

九州大学大学院 農学研究院 昆虫学教室 <sup>や</sup>屋宜 <sup>さだひさ</sup>禎央・<sup>ひろわたり</sup>広渡 <sup>としや</sup>俊哉

## はじめに

小型のガ類（小蛾類）は、近縁種同士が酷似する 경우가多く、これまでに蓄積された標本や分布情報、生態情報の少なさ、分類学者の不足などの問題から分類学的研究が遅れている。そのため、小蛾類の重要な害虫種に関してさえも種同定が保留されたままであったり、誤同定に基づいて記録されたままであったりすることがある。

リンドウホソハマキ *Gynnidomorpha gentianae* Suzuki and Jinbo は、ハマキガ科ハマキガ亜科ホソハマキガ族に所属する体長5~7 mmほどの小蛾類である。本種の初齢幼虫は栽培用リンドウ *Gentiana scabra* var. *buergeri* の葉に潜ることで品質低下を招くことや、茎に食入して芯枯れ症状を招く害虫として知られている。本種によるリンドウの被害は柳沼（1980）によって岩手県、福島県、長野県から初めて報告された。その際、*Phalonidia rubricana* として本種は報告された。奥（2003）や駒井ら（2011）によってこの種は *G. rubricana* ではないことが指摘されたが、その後詳細な検討は行われず学名も保留されたままであった。SUZUKI et al. (2022) は本種の再検討を行い、*G. rubricana* とは明らかに異なる未記載種であることを突き止め、上述の学名を与えた。本稿では、本種が所属する *Gynnidomorpha* 属と SUZUKI et al. (2022) による分類学的再検討の概要、リンドウホソハマキと日本に生息する近縁種の識別点、およびリンドウホソハマキの分布と生態的特徴について概説する。

## I *Gynnidomorpha* 属について

リンドウホソハマキが含まれる *Gynnidomorpha* 属はアフリカと南米、南極を除いた全世界から19種、日本から7種が知られている。ヨーロッパから日本にかけて生息

Taxonomy and Biology of *Gynnidomorpha gentianae* Injurious to *Gentiana scabra* var. *buergeri*. By Shinya SUZUKI, Sadahisa YAGI and Toshiya HIROWATARI

(キーワード：小蛾類、リンドウ、リンドウホソハマキ、ハマキガ科、分類学)

する種の多くは古くは *Piercea* 属に含まれていたが、その後 RAZOWSKI (1977) が *Phalonidia* 属として扱うことを提唱したものの、RAZOWSKI (1987) は再び *Piercea* 属に戻した。さらに RAZOWSKI (1997) はこれらの種は *Gynnidomorpha* 属に含めることが妥当であるとした。このような経緯から、リンドウホソハマキに関するこれまでの国内からの報告は、年代によって属名の扱いが異なる。

*Gynnidomorpha* 属の多くの種は水田や河川敷などの湿地環境に生息しており、同じ場所に複数種が生息していることもある。また、一部の種は乾燥した草原環境にも生息している。本属の種の幼虫はゴマノハグサ科、オオバコ科、リンドウ科、オモダカ科、キク科、カヤツリグサ科などの草本植物の茎や種子の内部に穿し摂食を行うことが知られている（駒井ら、2011）。害虫としては、リンドウホソハマキ以外にはクワイホソハマキ *G. mesotypa* Razowski が知られている。クワイホソハマキの幼虫は栽培用クワイの葉柄を内部摂食し、葉柄を枯死させる。その結果、クワイの塊茎は肥大を妨げられ、収量の減少を招くことが知られている（那須ら、2008）。このように、本属は同所的に複数種が生息していることや重要な農業害虫種を含むことから、種の簡単な識別法の開発が望まれるが、斑紋が似た種が多く、さらには個体変異が顕著な種も含まれるため（図-1D~F）、斑紋のみによる種同定が難しい。そのうえ、国内の分類学的研究が不十分で、多数の正体不明種が見つかったため、本属の日本産種の網羅的な検討を行う必要がある。

## II 分類学的再検討

リンドウホソハマキの学名は、柳沼（1980）によるリンドウの初めての被害の報告では *Phalonidia rubricana* とされたが、奥（2003）は本種を *Gynnidomorpha* 属に所属を移し、雄交尾器の形態の違いから、リンドウホソハマキは *G. rubricana* とは別亜種である可能性について言及した。その後、駒井ら（2011）は雌交尾器にも *P. rubricana* との相違点を見だし、リンドウホソハマキは *P. rubricana* と異なる未同定種であるとした。しかし、そ